

伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュース

平成23年2月号



パネルディスカッションにて

先月の活動報告

<宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター開館20周年記念>
伊豆沼・内沼生物多様性シンポジウム H23.1.15 (土)

当たり前に見られるものを、大切に思う気持ちをいつまでも宮城県内外から150人が参加した「伊豆沼・内沼生物多様性シンポジウム」。山形大学理学部教授の横山潤氏の「伊豆沼・内沼の生物多様性」の講演に始まり多くの方々に貴重なお話をいただきました。横山氏によれば、アサザやメダカのような普通に見られていた生き物が、環境悪化により各地で姿を消している。そんな中、伊豆沼・内沼では普通の生き物が普通に生息している。地元で当たり前に見られるものは、実は大切なものなのだという事をお話し下さいました。



山形大学理学部教授の横山 潤氏 (左) と北海道宮島沼水鳥・湿地センターの牛山克己氏 (右)

死亡した野鳥を見つけた場合

死亡した野鳥には素手で触らないでください。

野生の鳥は、体内や羽毛などに細菌や寄生虫などの病原体があることがあります。

同じ場所でたくさんの鳥が死亡していたら

宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所、栗原産業経済部・各総合支所
宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団までご連絡ください。

野鳥は様々な原因で死亡します

野生の鳥は、エサがとれずに衰弱したり、環境の変化に耐えられず死んでしまうこともあります。野鳥が死んでいても、**鳥インフルエンザ**を直ちに疑う必要はありませんが、必ずご連絡ください。

鳥インフルエンザウイルスの人への感染について

鳥インフルエンザウイルスは、感染した鳥との濃密な接触等の特殊な場合を除いて、通常では人には感染しないと考えられています。日常生活においては、過度に心配する必要はありません。

野鳥との接し方について

○日常生活において、手洗いうがいをしていただければ、過度に心配する必要はありません。

○野鳥のフンが靴の裏や車両に付くことにより、鳥インフルエンザウイルスが他の地域へ運ばれるおそれがあります。伊豆沼・内沼では、消毒槽を設置していますので、給餌地の出入りの際は消毒を行ってください。

死亡した野鳥を発見した時は、下記までご連絡願います

【平日の連絡先】

栗原市産業経済部農林振興課

TEL：22-1135

各総合支所産業建設課

宮城県北部地方振興事務所林業振興部森林管理班

TEL：22-2133

(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団(休館日及び夜間を除く)

TEL：33-2216

【夜間及び休日の連絡先】

栗原市産業経済部農林振興課

TEL：22-1135

宮城県北部地方振興事務所林業振興部森林管理班

TEL：22-2111

(栗原合同庁舎代表番号)

(財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団(休館日及び夜間を除く) TEL：33-2216

※休館日：月曜日、祝祭日の次の日